

長浜市図書館基本計画実施プラン
平成29年度評価書

平成30年11月

長浜市立図書館

平成29年度の外部評価を終えて	1
平成29年度の図書館評価について	2
1 地域と人がつながる知の拠点に向けて	3
1. 市民のための図書館サービス	
①資料の充実	
②レファレンス機能の強化	
③館内事業等の充実	
④電子化資料への対応	
1－1 に対する図書館協議会の評価	4
2. だれもが利用できる図書館をめざします	5
①来館が困難な人へのサービス	
②しょうがい者へのサービス	
③子育て世代へのサービス	
④高齢者へのサービス	
⑤外国語を母語とする人へのサービス	
1－2 に対する図書館協議会の評価	6
3. 子どもが本と親しめる図書館をめざします	7
①子どもの読書活動の推進	
②学校図書館との連携	
③園との連携	
④子どもと本をつなぐ大人への支援	
1－3 に対する図書館協議会の評価	8
4. まちの魅力を発信し、地域の文化的な拠点となる図書館をめざします	9
①地域資料や行政資料の収集	
②市の情報の提供	
③博物館や資料館との連携	
④活動発表の場の提供	
1－4 に対する図書館協議会の評価	9
5. 市民とともにつくる図書館をめざします	10
①市民との協働の推進	
②ボランティア活動の推進	
③図書館協議会等の活用	
1－5 に対する図書館協議会の評価	10

2 新体制の構築に向けて	
I. 図書館機能充実のための施設整備	
1. 均衡あるサービス提供のための新しい体制	11
① 6図書館の体制整備	
② 北部地域へのサービス拡充	
③ 中央図書館の役割	
④ 地域館の役割	
⑤ 施設の有効活用	
2-I-1 に対する図書館協議会の評価	12
2. 中央図書館に求められる機能と役割	13
① 市民が交流し活動を広げる機能	
② 地域の知の拠点としての機能	
③ 複合施設であることを生かした機能	
2-I-2 に対する図書館協議会の評価	13
II. 計画推進のための管理運営体制	
1. 運営方法	14
① 管理運営主体	
② 開館日・開館時間	
③ 職員の配置と資質向上	
2-II-1 に対する図書館協議会の評価	14
2. 資料管理	15
① 資料の整理および管理	
② 資料配送システムの充実	
2-II-2 に対する図書館協議会の評価	15
3. 機械化・自動化の推進	16
① コンピュータシステムの更新	
② 機械化・自動化の推進	
2-II-3 に対する図書館協議会の評価	16
3 サービス指標の設定と評価	
I. 数値目標と評価方法	17
3 に対する図書館協議会の評価	17

平成 29 年度の外部評価を終えて

長浜市図書館の年間事業を評価するにあたり、図書館協議会が外部評価を担うようになって 3 年目の取組を終えた。今回は、小委員会方式を採用した前年度の経験を踏襲し、図書館職員の手になる自己評価のまとめを参考資料とし、活動の実際につき職員からの事情聴取もかさねて、作業を進めた。

本年度の協議会は、大型複合施設に新設する中央図書館の建築計画が順調に進む中で、「中央図書館・北館・サテライトの効果的かつ効率的な役割と運営について」の諮問を図書館長から受け、5 月以降、ほぼ毎月一回の協議会を開くという過密なスケジュールの中で、小委員を引き受けていただいた委員には、非常なご苦勞をかけることになったが、事業評価を並行して取り組むことで、日常の図書館活動を踏まえたところからの、これからの在り方を検討するという作業の内容となり、いい関連付けを持たせることになったとも思われる。小委員会の作業の成果を全体会議で確認、了承し、本年度の外部評価の結果とした。

図書館評価は、図書館法第 7 条の 3 の規定に基づき各図書館に求められるところでもあり、その実施と結果の公表を通して図書館運営の改善を図ることは重要なことである。しかし、内部評価と外部評価のサイクルを毎年重ねることは、日常活動に過重な負担をもたらすのでは、という懸念も否めない。運営・活動の計画策定—実施—成果の評価・検証—新たな運営計画への反映、という評価の工程を、図書館運営のなかに根付かせる工夫を凝らし、定着させていくことを、新中央図書館を要とするこれからの長浜市立図書館システムの課題としていく必要がある。

来年度にはいよいよ新中央図書館の開館を迎えることになる。これまで 3 度の事業評価の結果が図書館職員すべての方々により共有され、新しい図書館運営のベースとして活かされていくことを期待したい。

長浜市図書館協議会

会長 塩 見 昇

平成29年度の図書館評価について

長浜市では、平成27年度策定の「長浜市図書館基本計画」に基づいて作成した「基本計画実施プラン」に沿って、図書館職員自身が行う自己評価と、図書館協議会が行う外部評価とを合わせ、それを図書館評価として公表してきました。

本年度、この評価は3回目となりましたが、図書館職員は、自己評価することで運営全体を見ながら担当業務の成果と課題をしっかりと把握することができました。また、協議会委員への説明の中での気付きなども多く、内部評価と外部評価を合わせることで、客観性ととも自発的な課題解決にもつながってきています。今後も、図書館職員と協議会委員が同じ課題を共有しながら、毎年度作業を積み重ねていくことで、評価が次の年度に活かせるよう取り組んでいきたいと考えています。

本評価の結果を日常の図書館運営に活かし、よりよい図書館サービスの進展に努めていきます。

平成30年11月

長浜市立図書館

報告書は、平成29年度の事業を対象としており、図書館職員自身による自己評価と、図書館協議会による外部評価の結果を並べる形で整理している。評価の基準、年度別工程表の見方は以下に示すとおりである。

●評価基準

- A : 計画以上の取組みをおこない、目標を大幅に超える成果があった
- B : おおむね計画に沿って実施し、課題はあるが、目標が達成できた
- C : 実施したが課題が多い
- D : ほとんど実施できなかった

※各年度の取組み目標が達成できたかどうかにより評価する

●年度別工程表の見方

- 検討 : 実施の是非を含め、方法等を検討すること
- 準備 : 実施に向けた具体的な準備をおこなうこと
- 実施 : 一定の方向性を定める、立案する、または実際におこなうこと

1. 市民のための図書館サービス

番号	①	資料の充実	年度工程
取組み内容	1	全館の蔵書構成を把握しながら、年度ごとの購入計画を作成し、それに沿って選書をおこないます。	実施
	2	全館で季節や時事にちなんだ本を集めたピックアップコーナーを設置し、定期的に入れ替えます。	実施
	3	館内の案内を工夫する等、見やすく探しやすい棚づくりをします。	実施
今年度取組み状況	資料購入計画を立て、各館の重点収集資料・予算配分を決め、円滑に資料購入をしました。また児童書・実用書等で複本購入をすすめました。ピックアップコーナーについては全館で取り組み、定期的な入れ替えを行いました。		自己評価 B
課題	利用者の要求を把握し、選書に生かすことが必要です。また予約の動向、資料提供までの時間を常にチェックし、利用者を長期間お待たせしない手立てが必要です。ピックアップコーナーで取り上げるテーマに偏りが感じられるため、工夫が必要です。また、コーナーで取り上げているテーマを一覧にした案内ボードを設ける等、周知方法を工夫します。		

番号	②	レファレンス機能の強化	年度工程
取組み内容	4	レファレンスを広く知ってもらい、利用しやすくなるような環境を整えます。	実施
	5	レファレンスの回答事例収集数を年5%以上向上させます。	実施
	6	収集したレファレンス事例は、図書館ホームページ等で一般公開します。	準備
	7	入手困難な資料は、県内外の公共図書館・大学図書館・各種図書館との相互貸借を積極的に利用して提供します。	実施
	8	職員は外部の専門的な研修を受講し、全職員を対象におこなう内部研修も積極的におこないます。	実施
今年度取組み状況	No.8：国立国会図書館主催のしょうがい者サービス研修など専門的な研修を受講し、その内容を全職員対象の研修で発表して、知識を共有しました。		自己評価 C
課題	No.4：レファレンスのサインと案内をカウンター等に設け、わかりやすい表示をすることが必要です。 No.6：公開に向けて既存レファレンスの整理を行います。 No.8：時間が限られているうえに職員の経験に差があり、職員一人ずつに応じた研修の開催は難しく工夫が必要です。		

番号	③	館内事業等の充実	年度工程
取組み内容	9	市民の幅広い知的好奇心を喚起するような講座や展示を年間3回以上企画し、実施します。	実施
今年度取組み状況	知の講座を4回（①野菜づくりのコツと裏ワザ28人②シニア向けスマートフォンの使い方講座24人③知的書評合戦ビブリオバトル2人④おもちゃドクターってなあに10人）を開催しのべ64人の参加がありました。4回目の講座は社会福祉協議会と共催し、参加者の次の活動に繋げることができました。		自己評価 A
課題	・テーマごとで参加人数にばらつきがあり、より市民の知的好奇心の喚起につながるようなテーマの設定が必要です。 ・開催の周知を広く行い申込みにつなげるために、申込書の近くに関連展示を設けたり、他の施設にもチラシやポスターを設置したりする等の工夫が必要です。		

番号	④	電子化資料への対応	年度工程
取組み内容	10	地域資料を電子化しデジタルアーカイブとして保存し図書館ホームページ等で公開します。	準備
	11	電子化資料の収集・貸出方法や提供方法を検討します。	検討
今年度取組み状況	「地域資料の収集手引き」に基づき地域資料を収集し、整理をすすめました。		自己評価 B
課題	・大量の地域資料のデータが未整備であり、まだデジタルアーカイブ化する前段階です。 ・電子化資料の収集等については、公共図書館への普及・動向を探る必要があります。 No.10：実施に向けて、公開する地域資料を選定し電子化します。		

1-1に対する図書館協議会からの意見

①資料の充実	A	予算の範囲内で工夫して取り組んでいる。
②レファレンス機能の強化	B	表示は、新館開館に合わせてながら、フロアワーク等で利用者のニーズを引き出す工夫を。
③館内事業等の充実	A	申し込み方法に工夫があり、目的を達成している。
④電子化資料への対応	B	選定の際は、特定のテーマで追いかける等の工夫が必要。

2. だれもが利用できる図書館をめざします

番号	①	来館が困難な人へのサービス	年度工程
取組み内容	12	公民館図書室や学校図書館との連携によるサービスポイントの増設や移動図書館車の導入を検討します。	検討
	13	高齢や療養、産前産後などの理由により図書館に来ることのできない人が利用できる、貸出・返却の仕組みを作ります。	準備
今年度取組み状況	仕組みの面で、ほとんど取り掛かることができませんでした。周知もできなかったため、郵送貸出しの新規利用の開拓もできませんでした。		自己評価 D
課題	各個人の事情に寄り添うために必要なガイドラインを確立することが課題です。 No.13：来館が困難な人が利用できる貸出・返却の仕組みを作ります。		

番号	②	しょうがい者へのサービス	年度工程
取組み内容	14	音訳ボランティア養成講座を主催し、講座受講後は定期的にスキルアップの機会を設けます。	実施
	15	だれもがわかりやすいピクトサインを計画し、設置します。	実施
	16	音訳や筆談、同行援助（視覚しょうがい者の安全確保と情報提供）ができる体制を整えます。	実施
	17	しょうがい者等に対し、年間100点以上、郵送貸出をおこないます。	実施
	18	関係機関のサービスを利用することで、視覚しょうがい者へ提供できる資料の数や質を向上させます。	実施
	19	図書館のしょうがい者サービスを周知するため、パンフレットを作成し、関係各課や団体などに配布します。	実施
今年度取組み状況	昨年度から引き続き、サピエ図書館を活用し市外の図書館から図書の借り入れによる資料提供をおこないました。また、LL版利用案内の作成に取り掛かりました。		自己評価 B
課題	「読みやすく分かりやすい利用案内」を完成させ、関連団体に配布するなど、サービスを周知するための広報が必要です。		

番号	③	子育て世代へのサービス	年度工程
取組み内容	20	はぐはぐおはなし会・木製おもちゃの貸出し・育児書や子育て情報の提供をします。	実施
	21	子育て世代が使いやすいように設備やスペースを工夫し整えます。	準備
	22	ブックスタートボランティアの養成講座を毎年開催し、年に3人以上増やします。	実施
	23	子育て支援施設と連携した事業をおこないます。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 本を入れるかごを載せられるベビーカーを長浜に3台、びわ・高月に各1台新規に導入しました。 ブックスタートボランティア3人が新たに定着しました。 3月末の子育て応援フェスタで、出張図書館サービスを実施しました。 		自己評価 A
課題	ブックスタートボランティアの継続的な取り組みへの支援が必要です。		

番号	④	高齢者へのサービス	年度工程
取組み内容	24	高齢者向けの資料を充実させるために、大活字本を年に50冊以上増やします。	実施
	25	社会参加やボランティア等、新たな活動のきっかけとなるような講座を年1回以上開催します。	実施
	26	高齢者施設における貸出の仕組みを作り、貸出しを促進するために周知します。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・大活字資料を33冊増やしました。 ・取組み内容No. 9で高齢者も参加できる講座（①野菜づくりのコツと裏ワザ②シニア向けスマートフォン使い方講座③知的書評合戦ビブリオバトル④おもちゃドクターってなあに）を開催しました。 		自己評価 B
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者施設に、図書館への来館を促したり団体貸出制度があることを周知したりする必要があります。 ・大活字本を各図書館間で移動させるなど、効果的な活用を図ります。 		

番号	⑤	外国語を母語とする人へのサービス	年度工程
取組み内容	27	外国語資料の収集・提供を進めます。特にポルトガル語・スペイン語資料をそれぞれ年に10冊以上収集します。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ポルトガル語 11冊、スペイン語12冊追加しました。 ・利用者がコンピュータで検索する際、言語ごとに本を検索できるようにしました。 		自己評価 B
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語資料があることのPRが不足しています。 ・関係機関と連携しながら、図書館の外国語資料の案内を進めます。 		

1-2に対する図書館協議会からの意見		
①来館が困難な人へのサービス	C	対象や内容について整理が必要。
②しょうがい者へのサービス	B	サピエを活用した方が早い場合もあり、地域資料に限定する等のすみ分けをしてもよいのではないか。
③子育て世代へのサービス	A	まんべんなく取組みが継続できている。
④高齢者へのサービス	B	来館が困難な高齢者へのサービスは難しいが、中央図書館開館後も見据え、計画的に進めてほしい。
⑤外国語を母語とする人へのサービス	B	OPACが日本語にしか対応していないが、外国語版の利用案内をPDFで貼り付ける等の工夫が可能。

3. 子どもが本と親しめる図書館をめざします。

番号	①	子どもの読書活動の推進	年度工程
取組み内容	28	「長浜市子ども読書活動推進計画」（第2次）に基づく「けやきっ子プロジェクト」を関係課の中心となって進め、第3次計画へつなげます。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 市内の高校と協力したおすすめ本の紹介や、文教短大と連携したコンクールをおこない、中高生の本への関心を高めることができました。 北部3図書室でも読書カードの配布や行事をおこない、身近な場所で受けられるサービスを広げることができました。 ブックスタートボランティアの活動の場を10か月児健診やはぐはぐおはなし会に拡大し市民とともに子育て支援をおこなう体制を強化することができました。 歴史遺産課と連携した「H-1グランプリコンクール」の優秀作品を展示して、図書館でも作品を紹介することができました。 市のけやきっ子読書の日に合わせて行事をおこない、啓発につなげました。 		自己評価 A
	課題	・ヤングアダルト世代（概ね10歳～22歳）へのPRをすすめるため、高校や大学と連携をする必要があります。	

番号	②	学校図書館との連携	年度工程
取組み内容	29	学校図書館の蔵書管理や書架の配置について学校及び学校司書の相談に応じます。	実施
	30	学校司書との連絡会を通じて、学校図書館の運営への支援や資料・情報の提供をおこないます。	実施
	31	学校連携が可能となる拡張性を持った図書館コンピュータシステムを採用し、体制を整備しながら学校図書館への支援を進めます。	実施
	32	図書館と学校間の資料配送システムのネットワーク化について検討します	検討
	33	図書館見学を積極的に受け入れるためメニューを作成し、学校図書館連絡会を通じて情報提供をおこないます。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて定期的に市教育委員会・司書教諭・学校司書と情報共有や意見交換をおこないました。（学校図書館連絡会2回開催、学校司書連絡協議会7回参加） 学校図書館のコンピュータ化とネットワーク化について担当課と協議しました。 		自己評価 B
課題	<p>学校司書の全校配置（H30年度）により、市内各小中学校の学校図書館が機能するなかで、市立図書館の支援および連携体制を整理する必要があります。</p> <p>No.32：実施に向けて学級巡回文庫の配送体制を確立し、現状を考慮しながら検討を進める必要があります。</p>		

番号	③	園との連携	年度工程
取組み内容	34	園の絵本の活用が進むよう、書架の配置や絵本の並べ方等の助言をおこないます。	実施
	35	市内全園に、来館による絵本の貸出しやおはなし会の受入れを毎年お知らせし、利用を促します。	実施
今年度取組み状況	・園の利用促進を図るため園向け団体貸出の体制整備をすすめましたが、まとめられませんでした。		自己評価 D
課題	団体貸出の体制を整備し、利用につながるよう保育に役立つ図書などの情報提供をします。		

番号	④	子どもと本をつなぐ大人への支援	年度工程
取組み内容	36	子どもの読書への理解と関心を深めるため、保護者やボランティアを対象に、年1回以上講演会等をおこないます。	実施
	37	園や学校で図書整理などをおこなうボランティアのスキルアップにつながる講座を開催します。	実施
	38	担当課と協力し、子どもの読書への理解と関心を深めるための教師・保育者向けの研修会等を年に1回以上開催します。	実施
	39	教師や保育者の教育活動や教材研究に役立つ資料を計画的に購入し、情報を提供します。	実施
今年度取組み状況	<ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせボランティア対象の紙芝居講座（22人）、図書整理ボランティアと学校司書対象に本の修理講座（24人）、ボランティア交流会（14人）を開催し、子どもと本をつなぐ大人のスキルアップと情報交流の場をもちました。 		自己評価 A
課題	園や学校に、教育活動や教材研究に役立つ資料の情報提供を行う必要があります。		

1-3に対する図書館協議会からの意見		
①子どもの読書活動の推進	A	図書館に来館しないYA世代への取組みを進めてほしい。
②学校図書館との連携	A	前年度の課題に対応できている。
③園との連携	C	保育者が必要としているサービスが揃っていない。
④子どもと本をつなぐ大人への支援	A	平成31年度からの学習指導要領の改訂を好機とし、メールマガジン等で教師や保育者に必要な情報提供ができるとよい。

4. まちの魅力を発信し、地域の文化的な拠点となる図書館をめざします

番号	①	地域資料や行政資料の収集	年度工程
取組み内容	40	行政資料の収集を市行政職員に周知し、ファイリングやデータの整理を進めます。	実施
	41	地域資料を市民に呼びかけ収集するとともに、データの整理を進めます。	実施
	42	地域資料の活用や継承する方法について、専門家や関係機関とともに検討する体制を整えます。	検討
今年度取組み状況	まちづくりセンターに資料（広報等）の提供を求めました。またデータの整理を進めました。（約700冊）		自己評価 C
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資料のデータ整備（資料の同定、正確な入力、再分類、長浜館への移管）を早急に進めます。 ・各課の保管する行政資料を過去のものも含め行政掲示板を活用して寄贈依頼を実施します。 ・図書館内での掲示、広報、図書館ホームページで市民からの地域資料の寄贈を呼びかけます。 No.42：開始時期を見極める必要があります。		

番号	②	市の情報の提供	年度工程
取組み内容	43	地域活動や子育て、暮らしに役立つ情報を収集・整理し、活用できる体制を整えます。	準備
今年度取組み状況	地域の情報、子育てに関する情報を集めたコーナーを各館に設置し、定期的に管理をしています。また、図書館HPのトップページに長浜市HPのリンクを貼り、図書館から長浜市の情報をすぐに見られるようにしました。		自己評価 B
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報のアプリ「ながまるキッズ！」（子育て支援課）を始め、情報発信源は複数あります。これらをうまく活用し、より広い範囲の市民へ情報を届けます。 ・市各課の発行物を定期的に調査し収集します。 		

番号	③	博物館や資料館との連携	年度工程
取組み内容	44	地域の歴史や民俗に関する専門的なレファレンスに対応するため、博物館や資料館との連携協力体制を整備します。	検討
	45	博物館との連携を進めるため、共催行事や展示の開催を年に1回以上おこないます。	検討
	46	歴史資料を博物館等と連携して保存・活用・提供できる体制を整備します。	検討
今年度取組み状況	長浜城歴史博物館（歴史遺産課）との共催事業であるH-1グランプリでは、受賞作品を図書館でも展示しました。		自己評価 C
課題	No.44、45を実施に移すために、今後の連携や協力のあり方について、関係課・機関と検討を進める必要があります。		

番号	④	活動発表の場の提供	年度工程
取組み内容	47	施設を利用した作品展示や活動の発表の場としての利用を促進するため、市広報や図書館ホームページで参加・応募を呼びかけます。また、展示や発表の成果を図書館ホームページ等で公開します。	準備
今年度取組み状況	さまざまな媒体で、図書館の事業を広報しました。また図書館ホームページで行事・イベント等の成果や様子を発信できるようにしました。		自己評価 B
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、ホームページでの展示や発表・事業の成果の発信は不定期です。今後定期的に発信する体制を整えます。 ・中央図書館の利用を見据え、地域館の活動場所（市民が行う展示や講演会など）との使用料を含めた整合を取る必要があります。 		

1-4に対する図書館協議会からの意見		
①地域資料や行政資料の収集	B	十分ではないが作業としては進んでいる。
②市の情報の提供	A	準備段階としては取組みを進め、新しい媒体にも対応している。
③博物館や資料館との連携	C	前回同様、連携のあり方が見えてこない。収集について根本的に違うので難しい面もあるが、情報共有等で協力できるとよい。
④活動発表の場の提供	B	定期的な発信ができるよう一層整備してほしい。

5. 市民とともに作る図書館をめざします

番号	①	市民との協働の推進	年度工程
取組み内容	48	市民の図書館運営への参画を促進するため、市民との協働による事業を年1回以上開催します。	実施
今年度取組み状況		・おはなしボランティアとのおはなし会開催、ブックスタートボランティアとのブックスタート事業、音訳ボランティアとのしょうがい者サービス（対面朗読）を協働でおこないました。	自己評価 A
課題		・市民がやりがいを持って活動を継続してもらえるようサポートするとともに、交流を深め、互いのスキルを高める必要があります。	

番号	②	ボランティア活動の推進	年度工程
取組み内容	49	図書館や読書に関するボランティアの交流会を年1回以上開き、情報交換できる場を設け、市民活動を広げます。	実施
	50	図書館を拠点として活動するボランティアに、通信を年6回程度発行し、ボランティアが図書館で活動するために必要な情報を提供します。	実施
今年度取組み状況		・読み聞かせボランティア交流会（2/6 14人）では、初参加の人が8割以上でした。 ・ボランティア通信を7回発行しました。	自己評価 A
課題		・より多くの人が続いてボランティア活動ができるよう、きめ細かいサポートの継続が必要です。 ・ボランティアとのつながりが途切れないよう、定期的に通信を発行します。	

番号	③	図書館協議会等の活用	年度工程
取組み内容	51	図書館のサービスを検証し、意見を求めてサービスの向上につなげるため、図書館協議会を年2回以上開催します。	実施
	52	講演会や講座の開催時には、毎回アンケートを実施し、市民の声を企画に生かします。	実施
今年度取組み状況		No.51：図書館協議会は4回開催しました。また、平成28年度事業に対する外部評価のための小委員会を3回おこない、県内の公共図書館では初めてとなる「外部評価の実施と公表」をおこなうことができました。 No.52：・講演会や講座の開催時には参加者アンケートを実施しました。 ・氏名や連絡先を明記したご意見箱への投函と、市や図書館のホームページを通じてのご意見には、連絡先の記載されているご意見には回答しました。	自己評価 A
課題		No.51：協議会・小委員会ともに内容を見直し、よりいっそう会の持ち方に工夫が必要です。 No.52：図書館未利用者の声を拾う工夫が必要です。 ・中央図書館の雑誌構成等もアンケートを取る等、幅広く市民の声を事業に生かせるようにします。	

1-5に対する図書館協議会からの意見		
①市民との協働の推進	A	ボランティアとではない協働があってもよい。
②ボランティア活動の推進	A	つながりを大切にしたい取組みができている。
③図書館協議会等の活用	A	外部の声を取り入れ、事業に生かしている。

I. 図書館機能充実のための施設整備

1. 均衡あるサービス提供のための新しい体制

番号	①	6 図書館の体制整備	年度工程
取組み内容	53	中央図書館・北図書館・サテライトの体制への移行に必要な条例改正をおこないます。	検討
今年度取組み状況	(平成30年度におこなう予定)		自己評価
課題	図書館協議会で、北図書館・サテライトの効果的かつ効率的な位置づけと運営のあり方について検討する必要があります。		

番号	②	北部地域へのサービス拡充	年度工程
取組み内容	54	木之本・余呉・西浅井サテライトに図書館司書が勤務する日数・時間を決めます。それ以外の日・時間帯の運営体制については、現行の管理者と協議をおこない決定します。	検討
	55	木之本・余呉・西浅井サテライトではおはなし会を開催したり、読書案内やレファレンスに応じたりするための体制を整備します。	検討
	56	北図書館が北部サテライトの資料配送や運営を支援するための体制を整備します。	準備
今年度取組み状況	これまで6館でおこなってきた児童行事を、木之本・余呉・西浅井図書室でも実施しました。また、資料配送とは別に司書が毎月訪問し、情報共有と意見交換を行いました。		自己評価 A
課題	地域に根ざした図書室となるべく、図書館サービスを充実させるための具体的な手立てを講じる必要があります。図書館協議会で北部地域の各図書館の運営のあり方について協議してもらいます。		

番号	③	中央図書館の役割	年度工程
取組み内容	57	中央図書館に庶務や企画部門を集中するため、事務分掌と職員配置を見直します。	検討
今年度取組み状況	(平成30年度におこなう予定)		自己評価
課題	複合施設のひとつの機能として期待される役割について検討する必要があります。図書館協議会で中央図書館のあり方について協議してもらいます。		

番号	④	地域館の役割	年度工程
取組み内容	58	地域館の庶務や企画部門は、中央図書館へ集約するため、事務分掌と職員配置を見直します。	検討
	59	地域館を活動拠点とする団体・ボランティアの活動を支援するための体制を整備します。	準備
	60	サテライトは、児童向けの資料や日常的・実用的な資料を中心とした蔵書構成となるよう、計画的に購入や移管を進めます。	準備
	61	サテライトは、地域の人々が気軽に集い談話できる場として整備します。	準備
今年度取組み状況	No.60：人気のある児童書の複本やわかりやすい実用書の選書に努め、身近で親しみをもてる資料の購入をしました。 (平成30年度におこなう予定)		自己評価
課題	北図書館・サテライトの効果的かつ効率的な位置づけと運営のあり方について検討する必要があります。中央図書館へ集約する事務を洗い出し、職員配置等の計画を立てます。また、サテライトの資料群を見直し、図書館から実用書等の移管を進めます。		

番号	⑤	施設の有効活用	年度工程
取組み内容	62	サテライトは、他の教育施設・機関との複合化や小学校・中学校の学校図書館と複合した地域開放型の学校図書館とする方向についても検討します。	検討
今年度取組み状況	(今後、関係課等と調整しながら進める予定)		自己評価
課題	図書館以外の用途と併用または転用について、当該地域にとってより有効な活用となるよう、総合的に調整する必要があります。		

2-I-1に対する図書館協議会からの意見		
① 6 図書館の体制整備	※	新体制の話なので評価の対象ではない。十分な検討をするように。
② 北部地域へのサービス拡充	A	十分情報共有したり、共同で事業をおこなったりして、さらにより形を検討し続けるように。
③ 中央図書館の役割	※	新体制の話なので評価の対象ではない。十分な検討をするように。
④ 地域館の役割	※	新体制の話なので評価の対象ではない。十分な検討をするように。
⑤ 施設の有効活用	※	新体制の話なので評価の対象ではない。十分な検討をするように。

2. 中央図書館に求められる機能と役割

番号	①	市民が交流し活動を広げる機能	年度工程
取組み内容	63	地域で活動する人やグループが活動の成果を発表できるスペースを中央図書館に設けます。	検討
	64	各地域で活動する市民同士が交流できる場を中央図書館が提供し、活動をサポートします。	検討
今年度取組み状況	交流に必要な場所と想定される活動に合わせた諸室について、実施設計で具体的に設計しました。		自己評価 B
課題	実施設計で交流できる場や発表できる場を設計しましたが、実際の運用方法については、関係する団体などと具体的に協議する必要があります。		

番号	②	地域の知の拠点としての機能	年度工程
取組み内容	65	市の最新情報だけでなく、地域に関わるあらゆる資料を幅広く収集し提供する機関リポジトリ（知的生産物を保存・公開するための電子アーカイブシステム）を検討し、長浜市の歴史や文化をインターネット等を通じて発信します。	準備
今年度取組み状況	「地域資料の収集手引き」（H28年度作成；内規）に基づき、長浜図書館を中心に資料の収集を行いました。		自己評価 B
課題	今はデータの整備、資料収集段階にあたり、次に資料の公開段階に入ります。そのためにどのような資料のデジタル化が必要か、資料の選定と公開の基準が必要です。		

番号	③	複合施設であることを生かした機能	年度工程
取組み内容	66	図書館と公民館が同じ施設内にあるメリットを生かし、市民の生涯学習をより効果的に支援することができる体制を整備します。	検討
	67	起業や就業、ビジネス拡大等の資料を集めたビジネス支援コーナーを設置します。	検討
	68	産業創造センターや商工会議所と連絡を密にし、相互の資料情報提供や講演会・相談会等の開催などについて協力体制を整備します。	検討
	69	市民のボランティア活動を支援できるよう、市民活動の支援と未来を担う人づくりに向けた市民活動支援センターや社会福祉協議会と連携を密にし、相互の資料情報提供や講演会・相談会等の開催などについて協力体制を整備します。	検討
今年度取組み状況	図書館や公民館（まちづくりセンター）など、それぞれの機能のメリットを生かす設計をすることができましたが、具体的な活用方法については協議に至りませんでした。		自己評価 C
課題	市民の生涯学習を支援するための具体的な体制を検討する必要があります。ビジネス支援のあり方や方法を具体的に検討する必要があります。		

2-I-2に対する図書館協議会からの意見		
①市民が交流し活動を広げる機能	A	具体的な運用方法は他機関との調整もありこれからだが、平成29年度取組みはできている。
②地域の知の拠点としての機能	B	博物館等と収集する対象物のすみわけが必要。また、No.40～42との違いを明確に。
③複合施設であることを生かした機能	B	この段階としては、具体的協議に至る以前の問題。今後、十分協議し体制を整備するよう。

II. 計画推進のための管理運営体制

1. 運営方法

番号	①	管理運営主体	年度工程
取組み内容	70	図書館の管理運営主体について、本市にもっともふさわしい形態について図書館協議会などで協議します。	実施
今年度取組み状況		主たる議題として協議することはできませんでした。	自己評価 C
課題		サテライトは、市民との協働による運営を視野に入れた、効果的な運営方法について検討する必要があります。	

番号	②	開館日・開館時間	年度工程
取組み内容	71	中央図書館の開館に合わせ、もっとも効果的で市民が利用しやすい開館日・開館時間となるように見直し、条例の改正などをおこないます。	検討
今年度取組み状況		市民にわかりやすく、最大のサービス効果をあげるための開館日・開館時間について検討しました。	自己評価 B
課題		条例改正をおこない、大きな変更について周知の開始時期や方法について準備する必要があります。図書館協議会で効果的な図書館運営のあり方について協議してもらいます。	

番号	③	職員の配置と資質向上	年度工程
取組み内容	72	全館の効果的な職員体制を整備します。	検討
	73	司書の育成や専門スキル習得・向上のための研修を計画的におこないます。	実施
今年度取組み状況		中央館開館に向けた資料整備に、必要な人員を配置しました。	自己評価 B
課題		職員体制は、開館日・開館時間と関連するため、その決定を踏まえて調整する必要があります。	

2-Ⅱ-1に対する図書館協議会からの意見			
①管理運営主体	C	図書館協議会の中では協議できなかったが、館内では検討を重ね先進地視察する等の準備ができた。	
②開館日・開館時間	A	他機関とも関連が深い。十分検討している。	
③職員の配置と資質向上	A	十分検討できている。研修も効果的に実行できている。	

2. 資料管理

番号	①	資料の整理および管理	年度工程
取組み内容	74	全館の蔵書規模と構成を見直し、効果的な資料収集・提供と適正な資料管理を計画的におこないます。	準備
	75	中央図書館の開館に合わせ、中央図書館の開架の充実に必要な資料の整備を計画的に進めます。	実施
今年度取組み状況	No.74：システムから蔵書構成統計が出力できるようになりました。参考資料の購入は3年計画の2年目であり、87冊（1,060,970円、年鑑・白書中心）購入しました。		自己評価
	No.75：中央図書館の資料管理に必要なICタグを貼付する資料の選別を進めました。		B
課題	No.74：不完全な図書ラベルの統一、修正をさらに継続させる必要があります。中央図書館オープンに向け資料1冊ずつにICタグを貼付する必要があり、現在資料の選別を実施しています。12月頃から貼付作業にはいる予定ですので、それまでに各館の蔵書の再構成を行い、資料の移管、中央図書館用資料の購入を進めます。 No.75：選別には時間と手間がかかるため、通常の業務と平行でおこなうのは非常に困難でした。そのため進捗は遅れ気味ですが、丁寧に作業が進められています。		

番号	②	資料配送システムの充実	年度工程
取組み内容	76	資料配送システムは、現在の週3回から週5回の配送に増便します。	準備
今年度取組み状況	週4回（日・月・水・金）を維持して実施しました。物流量の増大に対処し、利用者サービスの向上を図るために、30年度予算要求では、週4回を維持するも、事業形態を民間委託とすることとしました。		自己評価
			B
課題	休館日が館によって異なることから、全館で増便するには休館日の調整が必要です。		

2-Ⅱ-2に対する図書館協議会からの意見

①資料の整理および管理	A	計画的に進めることができている。
②資料配送システムの充実	A	計画的に進め、今後もさらに充実させるように。

3. 機械化・自動化の推進

番号	①	コンピュータシステムの更新	年度工程
取組み内容	77	ホームページは、よりわかりやすく利用しやすい内容となるよう、システム更新時にリニューアルします。	
	78	インターネットを利用した検索や予約のシステムには、メールマガジン等の新しい機能を追加します。	
今年度取組み状況	HPには定期的に行事、お知らせをアップしました。また子ども向けのページや図書館の情報など、見やすくするための更新を行いました。		自己評価 A
課題	インターネットを使った情報発信において、SNSの使用も検討する必要があります。		

番号	②	機械化・自動化の推進	年度工程
取組み内容	79	自動貸出・返却装置、自動予約棚、自動化書庫、BDS等の導入を進めます。	検討
	80	機械化・自動化促進のため、ICタグの貼付を進めます。	実施
	81	インターネットを利用した蔵書検索や資料予約、メールによる予約連絡の利用者を増やすため、周知を進めます。	実施
今年度取組み状況	ICタグを利用した自動貸出装置など導入するための予算要求を行いました。		自己評価 A
課題	ICタグを活用したシステムを稼働させるために、中央図書館オープンまでに資料の整備が完了していることが必要です。 No.79：平成30年7月中に入札・契約が完了する予定であり、8月以降業者との打ち合わせに入り、来年10月をめどに導入します。		

2-Ⅱ-3に対する図書館協議会からの意見		
①コンピュータシステムの更新	A	新館開館にあわせた稼働に向け、計画的に準備が進められている。
②機械化・自動化の推進	A	新館開館にあわせた稼働に向け、計画的に準備が進められている。

I. 数値目標と評価方法

番号	数値目標と評価方法	年度工程
取組み内容	82 年度ごとの具体的な取組み目標を設定し、達成状況について項目ごとの自己評価をおこないません。	実施
	83 目標の達成状況を検証するため、利用者アンケートや市民懇談会等をおこないます。	実施
	84 年度ごとに、図書館協議会から意見を聴取します。	実施
	85 年度ごとの実績と併せ、自己評価および図書館協議会からの意見を事業年報で公表します。	実施
今年度取組み状況	No.82・84・85：平成28年度の自己評価をおこない、それをもとに図書館協議会から意見を聴取して外部評価とし、それらをまとめて「長浜市図書館基本計画実施プランに基づく評価書 平成28(2016)年度版」として公表しました。また事業実績は「長浜市立図書館事業報告書 平成28(2016)年度版」として公表しました。	自己評価 B
課題	No.82・84・85：年度ごとの取組みは85項目と多岐にわたるため、予算要求に間に合うスケジュールで外部評価を聴取し、まとめるまでには至りませんでした。	

3に対する図書館協議会からの意見

数値目標と評価方法	B	評価を次年度事業に生かせるような工夫が必要である。
-----------	---	---------------------------

長浜市図書館基本計画に掲げる数値目標

サービス指標			実績		目標
			平成25年度	平成29年度	平成31年度
①	実利用者率(市民)	%	15.8	14.0	25.0
②	個人貸出密度	冊	8.6	7.7	10.8
③	来館者数 (長浜図書館・中央図書館)	人	138,633	128,420	350,000
④	個人貸出冊数(全館)	冊	1,051,471	914,530	1,300,000
⑤	予約・リクエスト件数(全館)	件	144,355	147,383	165,000
⑥	レファレンス件数(全館)	件	270	146	350
⑦	市民による展示・発表件数(全館) (おはなし会を含む)	件	78	95	100
⑧	ボランティア活動者のべ人数(全館)	人	1,021	963	1,200

- ① 実利用者率 1年間に図書館の貸出を利用した市民の割合
 ② 貸出密度 1年間の市民1人あたりの貸出冊数